

緩 和 ケ ア 便 り

日頃、緩和ケアチームにご支援・ご協力いただきまして、本当に有り難うございます。
平成28年10月8日、9日、北海道は札幌で行われた「第40回日本死の臨床研究会」に当院緩和ケ
アチームも参加してきましたので、その概要と様子をご報告致します。

日本死の臨床研究会の概要

日本死の臨床研究会は、死の臨床において患者や家族に対する真の援助の道を全人的立場より研究していくことを目的とし、1977年に創立されました。ターミナルケアは、各方面からの努力にもかかわらず、まだ多くの問題が山積みしています。その原因はいろいろ考えられますが、根本的には医療提供専門職の養成教育、卒後教育の中で取り組みが十分でなかったことが反省点として考えられ、日本死の臨床研究会では、その現状に立った毎年の年次大会および総会、会誌「死の臨床」の発行、各種専門委員会の活動、教育のためのセミナーなどが開催されています。

ポスター発表をしてきました！ 武石優子/奥山奈穂子

乳腺外来 武石優子（乳がん看護認定看護師）

演題名：乳腺外来におけるアドバンス・ケア・プランニングの必要性

乳癌再発の治療を受けている患者さんの病状進行に伴う苦痛への対応とケア、患者さんが希望する療養環境の調整とサポートについて検討・発表しました。病状進行が早い方では身体的苦痛を和らげることが中心になり、病状進行が緩やかな方では苦痛を和らげながら可能な限り自宅での生活が可能でした。今後、再発治療～終末期をどのように過ごしたいか、どのような治療を希望し希望しないかを医療者と話し合っておくアドバンス・ケア・プランニング（ACP）を導入し患者さんの希望を尊重した対応とサポートを行っていく予定です。



緩和ケアチーム 奥山奈穂子（緩和ケア認定看護師）

演題名：緩和ケア認定看護師と訪問看護師による同行訪問の有用性を振り返る

私は、昨年7月より在宅療養を希望する、がん患者さんと家族のニーズに合わせ、平鹿訪問看護ステーションの訪問看護師と連携し、同行訪問を開始しました。今回の研究会では、同行訪問の有用性について調査した内容を発表しました。結果として、同行訪問は、専門的な疼痛・症状管理、精神的サポートが維持できることから、がん患者さんが望んだ場所で過ごすための一助となる可能性が示唆されました。今後も、がん患者さんが望んだ場所で安心して療養できるよう支援していきたいと思っています。

第41回年次大会 in秋田！

2017年、年次大会の会場は、秋田です！

来年の予定ではありますが、全国で御活躍されている素晴らしい講師の方々が参加して下さることが決定しています。貴重な御講演を拝聴できる、大チャンスになると思います。

非会員の方であっても、参加費はかかりますが、医師以外の医療スタッフの初心者もベテランも、市民も対等に参加できる研究会です。日程が近くなりましたら、正式なホームページが立ち上がると思いますので、それまで随時、緩和ケア便りで皆様にご紹介していきたいと考えています。

死の臨床研究会



検索

痛みや症状コントロール、ケアについてのご相談がありましたら、緩和ケアチームへご連絡ください。

